観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日:令和5年7月28日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分	広域連携DMO・地域連携DMO	地域DMO
※該当するも		
のを〇で囲む		
こと		
観光地域づく	公益社団法人 伊勢市観光協会	
り法人の名称		
マネジメン	三重県 伊勢市	
ト・マーケテ		
ィング対象と		
する区域		
所在地	三重県伊勢市本町 16-2	
設立時期	昭和 25 年 1 月	
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	の 1 年間
職員数	20人【常勤8人(正職員8人)、	非常勤 12 人】
代表者(トッ	(氏名)	伊勢市の観光産業における代表格ともいえる老舗
プ人材:法人	濱田 典保	が出身母体であり、大きな影響力を持つ。公益社
の取組につい	(出身組織名)	団法人伊勢市観光協会の会長として、また、伊勢
て対外的に最	株式会社 赤福	商工会議所の副会頭として地域の様々なパイプ役
終的に責任を		となっている。
負う者)		
※必ず記入す		
ること		
データ分析に	(氏名)	民間企業勤務時、店舗・教室の長として運営管理
基づいたマー	谷 朋恵「専従」	に携わる。伊勢市役所観光所管課にて係長・課長
ケティングに	(出身組織名)	補佐として平成 25 年第 62 回神宮式年遷宮時、
関する責任者	(公社)伊勢市観光協会	国内誘客事業・インバウンド事業等に携わる。観
(CMO:チ		光協会にて案内所運営など受入環境整備事業や誘
ーフ・マーケ		客事業、観光 HP の構築、SNS情報発信などを
ティング・オ		担当。国内旅行業務取扱管理者の資格取得。
フィサー		
※必ず記入す		
ること		
財務責任者	(氏名)	システム会社等を経て、数社で経理業務に携わ
(CFO:チ	小山直子「専従」	る。伊勢市観光協会の経理担当として、公益と収
ーフ・フィナ	(出身組織名)	益の会計を取り纏める。
ンシャル・オ	(公社)伊勢市観光協会	
フィサー)		
※必ず記入す		
ること		

経営・マネジ	(氏名)	民間企業勤務時、日本・中国にて国際貨物輸送及
メント責任者	西村 純一「専従」	び輸出入業務に携わる。その後留学経験を活かして流光、現地で映像なりなる社に散落。18年ま初
兼 インバウン	(出身組織名)	て渡米、現地で映像制作会社に勤務。13 年を超
ド責任者	(公社)伊勢市観光協会	える米国生活により英語堪能・中国語も可。伊勢
		市観光協会専務理事として、観光協会の経営・マ
		ネジメントに従事している。
連携する地方	│ │伊勢市産業観光部 観光振興課(種	
公共団体の担		国内外観光誘客・国内外観光情報発信)
当部署名及び		の工業振興・商工業情報発信)
役割	伊勢市都市整備部 交通政策課(額	
	伊勢市情報戦略局 企画調整課(2)	
	文化政策課(文	
		課(ICT 活用、DX 推進)
		観光誘客・国内外観光情報発信)
連携する事業	伊勢志摩観光コンベンション機構	(広域連携誘客・修学旅行誘致)
者名及び役割	三重県観光連盟(情報発信)	
	伊勢商工会議所(事業連携)	
	伊勢まちづくり株式会社(出資・	
	三重交通・近畿日本鉄道・JR東	
	伊勢旅館組合・二見町旅館組合・	
		・伊勢シーパラダイス・忍者キングダム・伊勢志
	摩 e-POWER ROAD・たび蔵等(観光	
	神宮司庁・猿田彦神社・二見興玉	
	おはらい町会議・外呂参追発展会	・外宮にぎわい会議 等(地域団体)
 官民·産業間・	【該当する登録要件】①	
地域間との持		泊業者、飲食業者、物産業者、金融業者、交通事
続可能な連携		様な関係者が参画し、本法人が事務局を務める会
を図るための		和5年6月16日)、理事会(年12回:直近令和
合意形成の仕		まか、多様な関係者が参画する中期政策検討部
組み		信部会を設置、その部会下部組織のインバウンド
		めて不定期で開催している。また、多様な関係者
		する青年部も月例会(年 12 回)を開催するほ
	か、活発に委員会活動を行ってい	る。さらに、本法人が主導して近隣7市町の観光
	協会の観光協会長会議を開催する	とともに、市の総合計画会議、観光振興基本計画
	会議、交通対策会議など、官民連	携の重要な会議に参画し、伊勢市政策調整の一翼
	を担っている。	
	【該当する登録要件】②	
	令和4年度から、本法人が主導し	て伊勢市観光振興課・伊勢市観光誘客課・伊勢ま
	ちづくり株式会社と、実務担当者	のDMO会議を月1回行い、役割分担のさらなる
	明確化と投入資源の集約の検討を	行っている。
161+17- CI 1-11		九八四数女子人送了上边里之一地是这口上地是人
地域住民に対		及び伊勢商工会議所と協働で、地域住民や地域企
する観光地域		研修を実施してきた。(コロナ禍で令和2.3.4
づくりに関する。		開し、情報をHPに公開するなど他の手法にも取り 舞坐序作成の数なを活用した「地域の舞坐人なの
る意識啓発・		観光庁作成の教材を活用した「地域の観光人材の
参画促進の取	1 ノハリント対応能力独化研修] 	を市と共催し、観光事業者と市民向けに行った。
組		

	及び伊勢商工会	oて一大行事である神宮式年遷宮に関しては、御遷宮委員会、伊勢市 会議所と協働し、初穂曳等の御遷宮にかかる民俗行事の企画・実行に 主民に対し意識啓発・参画促進を行っている。
法人のこれま	【活動の概要】	
での活動実績	事業	実施概要
		・ 令和 2 年度 ~ 4 年度 ISE SHOP 事業
	情報発信・	・っねと年度~4年度 TSC SHUP 事業 コロナ禍で売上の減少した伊勢の事業者の産品を、関東・関西で
		期間限定ショップを運営し、PR・販売促進した。
	ョン	◇令和2年度実績…関東1回(2か月)、売上約1,056万円
		令和3年度実績…関東2回、関西1回 売上約2,268万円
		令和 4 年度実績···関東 1 回、売上約 296 円
		・令和2年度~ 伊勢市観光HPの強化 コロナ禍で実際に旅行をする機会が減ったことを受け、令和3年
		古口が何で美味に旅行をする機会が減ったことを受け、市相る中 度に伊勢の観光 HP を刷新して情報発信力を強化した。令和 4 年
		度はフォトライブラリーの整備や SNS と連動したユーチューバー
		の活用、外国語の自動翻訳を適正な訳に変更するなどに取り組ん
		だ。また、令和4年12月からは、ホームページのチャットボッ
		ト機能の有人チャットを活用し、どこからでもリアルタイムでチ
		ャットができる環境を構築している。
		※その他、先の遷宮~平成31年度/令和元年度まで、伊勢市と協
		働しながら関東・北海道等にて観光展の実施なども行ってきた。
		※かねてより、伊勢市観光協会は伊勢市と連携し、発地型パンフ
		レット作成、観光ホームページ運営など伊勢の情報発信を担う。
		※また、「ええじゃないか伊勢・会員広報誌」にてDMOの活動
		を広報している。
	 受入環境の	・令和2年度~ 伊勢クリーン大作戦事業
		コロナ対策としてアルコール消毒が有効であったため、伊勢市内
	整備	の観光客が通る沿道上にアルコールスタンドを設置している。管
		理にあたっては沿道の店舗の協力を得ている。引き続き感染症対
		策として継続する予定である。
		◇設置件数…67 件
		· 令和 2 年度~ 観光地等混雑状況配信事業
		コロナ対策として密の回避が課題であったため、伊勢市内観光地
		等の混雑状況が WEB で事前に確認できるシステムを導入してい
		る。令和3年度から非接触デジタルサイネージを導入、駅等でも
		状況の確認が可能となった。今後も観光客の分散化対策に活用する る予定である。
		るアルじめる。 ・昭和 25 年~ 観光案内所業務の受託
		観光協会設立当初から観光案内を行ってきた。外国人観光案内所
		も取得し、伊勢市の観光案内所の業務を請け負う。令和4年度
		12月から、リモート観光案内機能を伊勢市と協働して導入、来
		訪数の多くない案内所を非接触リモート案内所とし、コンシェル
		ジュ案内所と位置付けた核となる案内所と遠隔で繋いでいる。遠
		隔案内機はフレキシブルに設置場所を変更・増設できる利点か
		ら、来る遷宮に向けて機能的な案内を検証している。

・平成 25 年~ 手荷物預かり所運営事業

外宮への玄関ロJR伊勢市駅に不足する、手荷物預かりを担う。 令和5年度8月から手書きの伝票をシステムで入力できるよう改 善し、顧客情報を収集する予定。

※その他、先の遷宮から、伊勢市と協働しながらレンタサイクル 事業も実施している。、

※かねてより、着地型パンフレット作成・おもてなし事業や研修 の実施を行い、伊勢の受入環境整備を担っている。

観光資源の 磨き上げ

・令和2年度~ 伊勢市二見ビーチ等活性化事業

コロナ禍等で海水浴場を開設できなかったことから、二見エリア 活性化のために、体験プラン「絆体験」を提案、造成している。

・令和4年度 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」

外宮内宮の参拝前に二見で禊をすることを周知し、伊勢市への宿泊促進と滞在時間延伸につながるコンテンツを検証するツアーを構築し、モニターツアーを実施した。モニターの評価を基に販売可能な体験をブラッシュアップし、令和5年度中に商品化を目指す。

・令和4年度三重県「魅力ある観光地作り補助金」

伊勢に電動モビリティ(バイク・トゥクトゥク)による体験ツア ーを導入し、新たなる魅力を構築した。

※先の遷宮~平成31年度/令和元年度まで、伊勢市・伊勢商工会議所と協働しながら外宮周辺魅力創造事業・夜の魅力創出事業に取り組んできた。これにより、減少していた外宮参拝者数が増加した。

【定量的な評価】

会員数は令和5年7月28日現在、446団体となっており、市内の主要な観光事業者が加入している状況となっている。

<観光案内所案内数・神宮参拝者数比較>

	5案内所 総計	神宮参拝者数	割合		5案内所 外国人数総計	神宮参拝者数 (外国人)	割合
H29年度	318,553	8,798,000	3.6%	H29年度	10,207	104,000	9.8%
H30年度	287,224	8,505,000	3.4%	H30年度	9,054	101,000	9.0%
H31年度 R1年度	212,340	9,729,000	2.2%	H31年度 R1年度	8,092	96,000	8.4%
R2年度	86,809	5,538,000	1.6%	R2年度	346	21,000	1.6%
R3年度	85,593	3,827,000	2.2%	R3年度	278	8,000	3.5%
R4年度	115,153	6,037,000	1.9%	R4年度	1,094	19,000	5.8%

※神宮は暦年・概数

※神宮は暦年・概数

<手荷物預り・ホテル配送数(暦年)>

年	預かり	配送	合計
H29	31,104	26,685	57,789
H30	26,233	17,486	43,719
H31/R1	31,207	17,558	48,765
R2	9,705	6,092	15,797
R3	7,690	2,874	10,564
R4	22,180	7,565	29,745

<観光ガイド案内数>

	案内件数	案内人数	件数
	条門干奴	柔的人数	前年対比
H29	4012	12890	116.6
H30	3763	11774	93.8
H31/R1	3712	11818	98.6
R2	978	4380	26.3
R3	851	4535	87.0
R4	1833	6796	215.4

<レンタサイクル貸出数(暦年)>

年	外宮前観光案内 所	宇治山田駅観 光案内所	手荷物預かり 所	オランジェ	合計
H29	1,297	633	2,251	_	4,181
H30	1,050	337	2,157	_	3,544
R1	1,287	122	2,112	_	3,521
R2	1,118	152	1,326	_	2,596
R3	723	88	1,390	162	2,363
R4	1,000	93	2,821	223	4,137

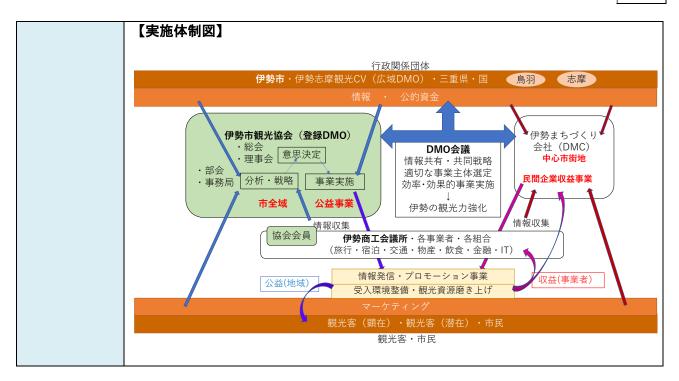
実施体制

※地域の関係

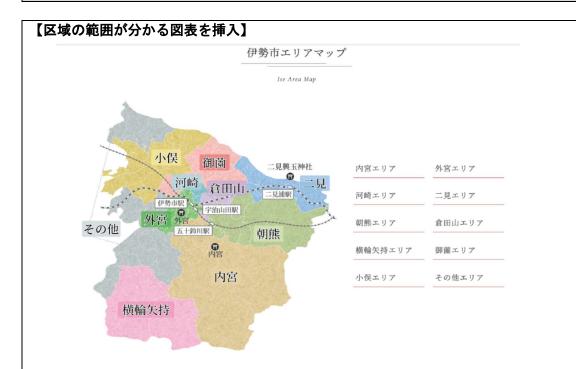
者との連携体 制及び地域に おける合意形 成の仕組みが 分かる図表等 を必ず記入す ること(別添 可)。

【実施体制の概要】

(公社) 伊勢市観光協会が母体となり、行政、旅行業、宿泊業者、飲食業者、物産 事業者、金融事業者、交通事業者、IT事業者、文化施設等、多様な関係者が参画 し、各部会・各専門委員会が事業を実施する。また、伊勢市・伊勢商工会議所・伊 勢まちづくり株式会社とDMO会議を設置、組織をまたいだ資源の集約の検討を行 う。



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域



【区域設定の考え方】

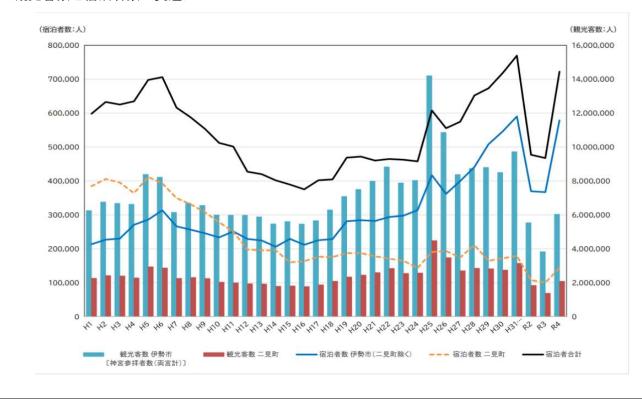
伊勢市は市内に山・海・川・市街地など多様な観光資源がある恵まれた都市である。また、外宮・内宮・二見エリアをキラーコンテンツとした観光が目立ってはいるが、神宮を中心として、市内各エリアに歴史・文化に基づくストーリーが息づいており、全体が繋がっている。これらのストーリーを活かし市内全体を観光活性化区域として設定し、伊勢市及び様々な主体とともに、DMOとして多様な魅力を創出し、活性化に取り組んでいくことが大切であると考えている。

【観光客の実態等】

平成5年の遷宮時までは、ピークの観光客数が約800万人、その前後の平常時の観光客数が600万人程度という流れであったが、平成25年の遷宮時の観光客数は1,400万人、平常時の観光客数が800万人という良い流れとなっていた。しかし、コロナ禍の影響により、令和3年は380万人台となり、令和4年度は600万人台に回復したものの、800万人台まで持ち直したいところである。コロナ禍の影響を排除して考えると、平成25年の遷宮時に、本来からある伊勢の優良コンテンツの魅力を効果的に発信することができたため、しっかりと伊勢が参拝と観光の地として再認知され、それが継続してリピーター化している。満足度も85~90パーセント程度と比較的高い数値を保っていること、観光客の年齢層も若年層から年配層まで渡っていることから、訪問する価値のある旅行先として選ばれるようになっている。しかし、移動・交通の満足度が一番低く、情報・案内の満足度が2番目に低いことから、この部分が課題となっている。また、伊勢地域の宿泊を担っていた二見エリア宿泊者数は、平成11年頃を境に伊勢市街(伊勢市エリア)の宿泊者数を下回るようになったが、二見の観光客数は伸びており、宿泊地から立ち寄り地へ変遷をしている途上であると分析する。ニーズに合わせたまちづくりも課題となっている。

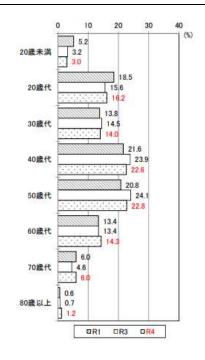
コロナの影響を受ける以前:2019 年全国平均の宿泊旅行単価55,054 円/人、日帰り旅行単価17,334 円/人に比べると、伊勢市の観光消費額は半分以下となっており、単価の上昇が課題である。なお、伊勢市観光協会で令和3年度リピーターを対象に行ったアンケート調査では、旅行単価が1~3万が多く、仮に1万円~3万円を2人の予算とすると5千円~1万5千円程度の消費の方が多いということになる。この調査は宿泊者率が多かった(3万円以下の消費額のものについて、宿泊:日帰りは1.1:1)ことから、コロナ禍では宿泊費のみの支出でほとんど消費せずに帰っている宿泊客も多かったことが示唆される。なお、伊勢市の観光客実態調査のH31/R1年の日帰り旅行単価は7,647円であり、日帰り旅の消費先として食事とおみやげ購入と考えられるが、コロナ禍で御土産購入が激減してから、その後土産の購入量の復活が鈍い。御土産の習慣の復活の仕掛けも必要である。

<観光客数と宿泊者数の変遷>



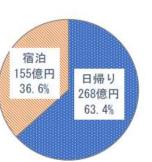
<観光客の満足度/観光客の年代(R1・3・4年度)>



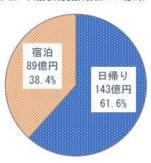


<観光消費額(R1.3.4年度)>

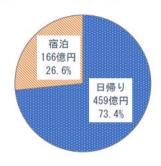




■令和3年観光消費額(合計232億円)



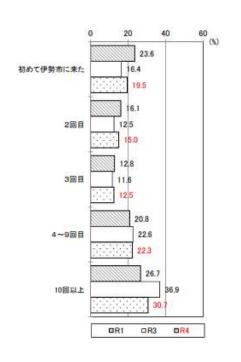
■令和元年観光消費額(合計625億円)

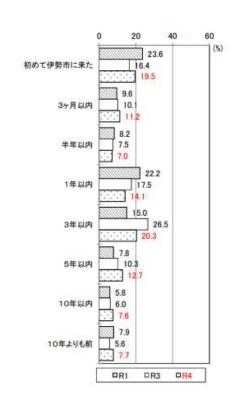


<観光消費額一人当たり単価(R4年度)>

区	分	宿泊費	土産代	飲食費	入場料	その他	交通費	パック代金	総額
日帰り	消費額	2—1	2,868円	2,972円	55円	67 円	590 円	251 円	6,803円
市内宿泊	消費額	13, 324 円	4,951円	6,162円	184 円	309円	1,055円	573 円	26,558円

<訪問回数/訪問時期(R1.3.4年度)>





【観光資源:観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

主な観光資源は、神宮(内宮・外宮・別宮等)、二見(二見興玉神社・夫婦岩)、河崎のまちなみ(伊勢河 崎商人館)、朝熊山(金剛證寺、奥之院、朝熊山上公苑)など。

主な商業施設は、おはらい町通り・おかげ横丁、外宮参道、夫婦岩めおと横丁、伊勢シーパラダイス、忍者キングダム、伊勢志摩 e-POWER ROAD など。

主な自然は、二見浦・朝熊山(伊勢志摩国立公園)、横輪・矢持の山里、伊勢平野の田園風景など。

主な文化は、食(伊勢餅文化、伊勢うどん、さめのたれ、御師料理など)、博物館(神宮各博物館、伊勢河 崎商人館、賓日館、古市参宮街道資料館など)、御師、注連縄、朔日参りなど。

主なスポーツ・イベント等は、伊勢神宮奉納全国花火大会、お伊勢さんマラソン、全日本大学駅伝、ソフトテニス全国大会、伊勢楽市、外宮奉納市など。

【宿泊施設:域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

伊勢市における宿泊施設は、二見エリアと伊勢エリアに2分される。市内全域としては、令和4年度は宿泊施設数63、収容人数は5449人となっている。これは、鳥羽・志摩の半分にも満たないため、キャパシティーの増加が課題である。また、鳥羽・志摩は観光客数の約34~40%が宿泊者数であるが、伊勢は9%程度である。観光客に伊勢市内に宿泊してもらう取り組みが課題である。

また、伊勢市内には富裕層の好むランクのホテルがほとんどないため、ホテルランクのバラエティー強化 も課題であり、誘致等について市とともに取り組む必要がある。

<伊勢・二見宿泊者数>

	伊勢			二見				
年	宿泊施設数	宿泊人員 (人)	収容人数	宿泊施設数	宿泊人員 (人)	収容人数	人数合計	備考
H25	30	417,256	2287	22	190,733	1747	607,989	遷宮
H26	31	362,044	2332	22	193,689	1871	555,733	
H27	34	399,930	2387	20	174,840	1602	574,770	
H28	35	441,117	2704	21	211,007	1683	652,124	サミット
H29	33	508,504	2927	20	164,861	1789	673,365	
H30	36	546,072	2975	22	172,152	1740	718,224	
H31/R1	40	590,342	3116	22	179,277	1943	769,619	
R2	40	369,730	3152	22	107,629	1943	477,359	コロナ
R3	39	367,091	3135	23	100,472	1832	467,563	コロナ
R4	41	578,810	3617	22	143,584	1832	722,394	コロナ

【利便性:区域までの交通、域内交通】

交通面は、名古屋方面から近鉄又はJRで1時間20分程度、大阪京都方面から近鉄で2時間程度、中部 国際空港から鉄道経由で2時間半程度、東京方面からは新幹線を利用して合計3時間程度であり、各都市 圏から日帰り圏内の旅行地となっている。

道路に関しては、伊勢自動車道伊勢インター又は伊勢西インターから市内に入ると、神宮へは国道 23号、御幸道路、御木本道路が利用でき、二見へは国道 42号、伊勢二見鳥羽ラインとルートも充実してい

る来通交ールっら向くアと割る。勢手通・、て鳥か、のしを共のはスン歩る志こ勢ーのた交市主、タな。摩と志ト重しでの三クイと勢面多エテないの交重シクなかへ リィ役



【外国人観光客への対応】

コロナ前の、平成31年度/令和1年度であっても、伊勢の外国人観光客数は、全体の観光客数の1%程度であり、インバウンドに選んでいただける観光地としてはまだまだである。認知度の向上から取り組んでいるところであり、欧米系の知識層とアジア系の親日知識層に伊勢の文化を伝え興味をもっていただく取り組みを、三重県・伊勢市・伊勢志摩の近隣団体等とともに実施している。

なお、案内所については令和 4 年 12 月 1 日に統合を行った。核となる伊勢市駅観光案内所は JNTO 認定観光案内所のカテゴリー II を取得し、外国人への対応とおもてなしを対面案内で行うとともに、市内 4 か所に設置した遠隔案内機を通じて各エリアでの英語対応が可能となったため、英語対応案内は強化されている。また、観光ホームページについては、令和 3 年 4 月に改修を行い、日本語ページの情報ボリュームを確保し、かつコストパフォーマンスを向上させるため、多言語自動翻訳を導入した。機械翻訳の誤訳対応として、変更のあまりない部分については、令和 3 年度に翻訳チェックを行い、アフターコロナのインバウンド対応に向け準備を行った。なお、英語の AI チャットボットを令和 3 年度整備し、世界中からの対応も可能にしている。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光消費額の拡大を目指し、一 人当たり消費額を向上させる手 段に取り組むため。	伊勢市観光客実態調査にて観光消費額を 調査の上、三重県、観光庁の観光消費額 の調査、独自アンケート等を鑑みて分析 している。
延べ宿泊者数	伊勢市の延べ宿泊者数等を把握 し、滞在時間延伸・観光消費額 増加の指標とする。	伊勢市の観光統計、市政統計要覧から分析している。
来訪者満足度	来訪者の満足度を向上させ、訪問リピート率を上げるため。	伊勢市観光客実態調査の各項目を調査、 満足度の推移と率をもとに分析している。
リピーター率	伊勢を訪れる観光客の傾向、特性を把握する。	伊勢市観光客実態調査、伊勢志摩観光コンベンション機構旅行者アンケート、独自アンケート等から分析している。
WEBサイトのアクセス状況	伊勢市等の観光情報発信をタイムリーに行うとともに、観光客の需要を把握するためにも閲覧 状況を活用している。	Google Analytics, Google search console 等を活用して実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	市民アンケートの「伊勢市に自分のまちとしての愛着を感じているか」、「国内外に誇れるか」及び「伊勢市が力を入れるべき項目」の観光に対する結果等を参考にしている。
外国人観光客数	外国人観光客数及び把握し、海 外への情報発信や、受け入れ観 光整備の施策を行う指標として いる。	観光案内所外国人案内数・伊勢神宮外国 人参拝者数を調査の上、伊勢市外国人観 光客実態調査を鑑みて分析している。

観光経済波及効果	主に宿泊業、小売業、飲食サービス業の動向を把握し、観光施 策が経済に波及しているのか検 証する。	経済センサス活動調査結果をまとめた伊勢市統計レポート(R4速報R9結果)等から発表され次第分析したい。また、産業連関表等の活用なども検討していく。

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

伊勢市は神宮の遷宮が観光入込客数のピークとなる周期変動を繰り返してきたが、平成25年の遷宮で1,400万人を記録して以後、平成5年の遷宮時程度の800万人の観光入込客数を維持するという今までにない状況を見せてきた。この状況の中積極的に観光事業に取り組んできたものの、直近の令和2年から3年にかけて新型コロナウイルス感染拡大という未曽有の状況が発生し、入込客数も大きく落ち込みを見せた。このコロナ禍の経験が今後の人々の観光動向にどのような影響を及ぼしていくのかは、専門家の分析も一定ではないが、ポストコロナとなった今、観光客に伊勢の魅力を感じてもらい、観光を基幹産業化していく施策が必要となっている。そのベースとして、常日頃から地震や感染症等の危機管理を行い、安心安全に観光客を受け入れることが必須である。

また、観光という業界は一定の人気はあるものの、給与面等条件的なこともあり、地方の観光を担う人材は不足している。この点をいかに強化していくかも大きな課題である。

(2)地域の強みと弱み

<u> </u>	104人0万里のアと 330ア	
	好影響	悪影響
内部環境	強み(Strengths) ・伊勢神宮の唯一無二の存在価値 ・伊勢神宮に付随する歴史・文化 ・物語性で繋ぐことのできる地域 ・多様な名産品 ・伊勢のおもてなし文化	弱み(Weaknesses) ・域内を網羅する交通手段の不足 ・インバウンド認知度の低さ ・国外への価値の伝えづらさ ・観光人材不足 ・体験プラン不足 ・滞在時間の少なさ ・旅行消費額の低さ
外部環境	機会 (Opportunity) R15 年第 63 回神宮式年遷宮(予定) R8・9 お木曳(予定) R11 宇治橋架け替え(予定) R15 お白石持、遷御の儀(予定) R3 VISONの開業 R4 ジブリパークの開業 R7 大阪万博	脅威(Threat) ・地震等自然災害発生 ・感染症 ・交通渋滞 ・人口減少・高齢化 ・インフラの老朽化

[※]上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入(様式自由)。

(3) ターゲット

○第1ターゲット層

伊勢神宮への参拝と食べ物を楽しみに来訪する夫婦・家族(個人旅行)

〇選定の理由

令和4年度観光客実態調査の同行者調査にて、伊勢へ来訪者として1位含む上位を占めるのが夫婦を含む家族層であり、来訪理由1位・2位の参拝と食べ物を楽しみに、リピートして来訪しているロイヤルカスタマーである。

〇取組方針

神宮に毎年参拝していただけるように、参拝の価値や神宮存在の意味を「知る欲求」を満たす形で伝えていく取組を図る。伊勢独自の食べ物や商品の魅力などについて、購入に繋がるようなわかりやすく魅力ある情報発信に取り組む。既にリピーターとして定着している方々と伊勢を繋ぐ取り組みも検討・実施していく。

〇第2ターゲット層

風景自然・街並みを楽しみ、写真スポットに興味がある方(個人旅行)

〇選定の理由

令和4年度観光客実態調査の伊勢への来訪理由の3位・4位である、風景自然・街並み賑わいを楽しむ層である。

〇取組方針

滞在時間延伸の為には「サイトシーイング」だけでなく「エクスペリエンス」が必須である。現在楽しまれているサイトシーイングに「体験」を盛り込むことで観光商品としていくような取り組みを図る。具体的には現在じゃらんとともに取り組んでいる体験コンテンツ商品「絆体験」のような体験コンテンツ、伊勢のまちあるきを楽しんでいただけるような商品等を造成し、「見る」だけでなくプラスαの活動を購入してもらうことで、観光消費額を向上させていく。

〇第3ターゲット層

神宮という日本文化に興味のある外国の方(知識層)

〇選定の理由

少子高齢化の日本の観光において今後を見通し生き残る観光地となるためには必須なインバウンドであるが、令和4年中の神宮参拝者数のうち外国人の割合は0.3%と、1%を切っている(神宮司庁調べ)。この状況を改善する必要があるため。

〇取組方針

伊勢神宮のこと、伊勢という町のことについて、英語を中心に多言語でターゲットに発信し、文化的価値を理解し、知りたいと思う層に効果的に知ってもらえるような施策を検討し取り組む。広域 DMO当とも協力し、インバウンドに関する統計の不足も補っていく。

〇第4ターゲット層

一人旅のSBNR(宗教的ではないが精神的豊かさを求める)層の方(個人)

〇選定の理由

令和4年度観光客実態調査では伊勢旅行者の12.5%程度を一人旅の方が占めており、また、トラベルズー・ジャパンの2021年調査では、一人旅の目的の第1位は寺社仏閣めぐりとなっている。一人旅は、神宮の神聖さを感じに来ている傾向が特に強いセグメントであると推察される。

〇取組方針

神宮域内の大木に象徴されるような、神道の根底にある地球・自然の畏怖を感じに来ている方々に、SDGS目標 14・15 にも通じる、「常若(常に若々しくある状態)の精神」や、「山・川・海をめぐ

る命の水」のような、神宮が大切にしてきたものを切り口とした旅行を提案する。一人でも満足感の ある旅ができるという情報発信を促進する。

(4) 観光地域づくりのコンセプト

● できれている。 では、	(: / F/0/0-0-94 - (· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
普段の毎日を頑張るというサイクルを効果的にPRし、リピート率の高い観光地を目指す。自分をリセットする旅先がなぜ伊勢なのかということについて、20年ごとに神様にお遷りいただく神宮式年遷宮が、「常若(常に若々しくある状態)」の精神に基づき資源や技術・伝統を循環させながら連綿と行われてきたという伊勢の歴史や文化を知ることが答えに近づく方法であるとともに、そのストーリーをもった市内各所への周遊を目指すことで、魅力を高めブランドカの向上を図る。神宮前に発展している鳥居前町を始め、興味に応じた伊勢のまちあるきを楽しんでいただけるような商品企画・提案・情報発信に取り組み、飽きさせないまちというブランドを目指すとともに、周遊手段の確保という課題にも取り組む。なお、八百万の神を認める日本の文化は「価値観の違いを認める」ことであり、世界平和について考えるヒントにもなる可能性を秘めている。日本文化の根本にある、神社という存在の頂点の神宮がご鎮座する伊勢は、世界の知識層の興味も国内観光客と同様に喚起できるものであると確信している。伊勢市のこれまでのインバウンドの取組は、欧米の研究者やアーティストの招聘に絡めた英語による情報発信や、エリアをターゲティングした Google 広告を活用した動画配信、欧米の大学等での現地イベントなどを通じ、世界的には無名の「伊勢」というまちの存在の認知・興味喚起を図ってきた。この先は御遷宮の諸行事に合わせて認知・興味喚起を加速させ、訪問先として選	①コンセプト	・参拝により「自分自身の禊を行い浄化する」という非日常の感覚 ・神宮とは何なのか、なぜここにあるのかという知的好奇心の喚起 ・食や体験を含んだ伊勢のまちあるきの楽しさの提供 ・まち並みだけではないまちの魅力
	②コンセプトの考え方	普段の毎日を頑張るというサイクルを効果的にPRし、リピート率の高い観光地を目指す。自分をリセットする旅先がなぜ伊勢なのかということについて、20年ごとに神様にお遷りいただく神宮式年遷宮が、「常若(常に若々しくある状態)」の精神に基づき資源や技術・伝統を循環させながら連綿と行われてきたという伊勢の歴史や文化を知ることが答えに近づく方法であるとともに、そのストーリーをもった市内各所への周遊を目指すことで、魅力を高めブランドカの向上を図る。神宮前に発展している鳥居前町を始め、興味に応じた伊勢のまちあるきを楽しんでいただけるような商品企画・提案・情報発信に取り組み、飽きさせないまちというブランドを目指すとともに、周遊手段の確保という課題にも取り組む。なお、八百万の神を認める日本の文化は「価値観の違いを認める」ことであり、世界平和について考えるヒントにもなる可能性を秘めている。日本文化の根本にある、神社という存在の頂点の神宮がご鎮座する伊勢は、世界の知識層の興味も国内観光客と同様に喚起できるものであると確信しているの伊勢市のこれまでのインバウンドの取組は、欧米の研究者やアーティストの招聘に絡めた英語による情報発信や、エリアをターゲティングした Google 広告を活用した動画配信、欧米の大学等での現地イベントなどを通じ、世界的には無名の「伊勢」というまちの存在の認知・興味喚起を図ってきた。この先は御遷宮の諸行事に合わせて認知・興味喚起を加速させ、訪問先として選

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、 プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との	総会・理事会、情報発信部会・おもてなし行事部会・中期政策検討部
共有	会・青年部・各委員会等
※頻度が分かるよう記入	DMO会議
すること。	
	多様な関連団体で構成される理事会(毎月開催)、情報発信部会・おも
	てなし行事部会・中期政策検討部会や各委員会(不定期開催)にて、事
	業計画・予算計画及び、活動の意義・内容・成果・KPI 達成状況や地域
	経済や社会状況の分析結果等を記載した事業報告書・決算報告書を作成
	し、総会(年2回)の場で承認いただくとともに、HPで公開してい
	る。また、伊勢市の総合計画(年4.5回)や観光振興基本計画(年4

4. 5回)交通対策会議(年4. 5回)などの主要会議に参画し、観光 に直接関係しない事業者や、市民の方との意見交換・情報共有を図って いる。

なお、伊勢まちづくり株式会社とは定期的(月1回程度)に情報共有・ 戦略の統一を図ってきたが、それを発展させ、令和4年度から、本法人 が主導して伊勢市観光振興課・伊勢市観光誘客課・伊勢まちづくり株式 会社、伊勢商工会議所と、実務担当者によるDMO会議を月1回行い、 役割分担のさらなる明確化と投入資源の集約の検討を始めている。現在 は伊勢市内の資源集約等の協議を行っているが、コンベンションとも密 に連絡連携し、伊勢志摩エリアでの取組との相乗効果を意識している。

観光客に提供するサービスについて、維持·向上・ 評価する仕組みや体制の 構築

かねてより、二見ビーチ活性化事業として、伊勢市とともに「絆体験」 として着地型体験旅行商品の造成に、じゃらんとともに取り組んでい る。また、今年度は神宮参拝を看板商品の構成要素として地域に資源を 落とせる形にしていくため、観光庁の「地域独自の観光資源を活用した 地域の稼げる看板商品の創出事業」にて創出したコンテンツをブラッシ ュアップし、二見で夜の浜参宮(禊)を行うことで宿泊を促進し、特別 ガイドブックで外宮・内宮の理解を深めて参拝する商品の造成・販売を 目指した取り組みを行う。また、三重県の「魅力ある観光地作り補助 金」にも手をあげ、伊勢に電動モビリティ(バイク・トゥクトゥク)に よる体験ツアーも導入し(令和4年11月開始)、魅力の増加を図るとと もに、滞在時間の延伸・宿泊の促進に取り組んでいる。歴史ある団体の メリットとして、各社寺、公共交通機関等とのパイプも太く、観光案内 所にてそのお客様の旅に必要な効果的公共交通機関利用の案内を行うと ともに、伊勢まちづくり株式会社が三重県と取り組む Maas 事業にも参 画している。観光人材の育成としては、令和3・4年度は観光庁作成の 教材を活用した「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」を (直近:令和4年9月13日)市と共催、観光関係者や市民への研修を 行っている。CRM については、三重県が現在構築しているものへのデー タ提供及び利用と、Maas 事業アプリの情報利用を検討しているが、同時 に伊勢市としての導入も視野に入れ何か効果的かを検討していく。現在 は、市や協会において顧客アンケートや事業者アンケートを実施し、結 果を検証することで、顧客サービスの向上を図っており、特に伊勢市観 光客実態調査にて満足度の推移を注視し、受け入れ環境整備事業を中心 に満足度を向上させる取り組みを実施・検証している。

観光客に対する地域一体 となった戦略に基づく一 元的な情報発信・プロモー ション

観光スポット・観光施設・飲食店・土産物店・宿泊施設・各団体主催イベント等の細やかな情報の集約を行い、伊勢地域の観光情報発信プラットフォームとして、伊勢市と統一した伊勢の観光HPを運営している。また、SNSのうち、インスタとツイッターについては、ホームページへの誘導にもつなげるような情報発信を進めている。さらに令和4年度からは伊勢市とともにLINE内周遊アプリ「伊勢 DESIKA」構築に参画し情報発信・市内周遊につなげている。今年度再編成した伊勢市観光案内所の拠点となる伊勢市駅観光案内所では、将来的にワンストップ観光案内コンシェルジュを目指していく方向を定めた。

平成 25 年度の遷宮時に取り組んだ、地域一体となった「外宮から内宮へ」のプロモーションが一定の成果を見せたことを受け、それに引き続き、地域一体で、「二見から外宮・内宮へ」のプロモーションを行うことで伊勢市内への宿泊促進・泊食分離に取り組んでいる。伊勢市として伊勢市内の宿泊施設等の高付加価値化にも取り組む。

インバウンドについては伊勢単独での取組よりも伊勢志摩エリアで取り組むべきであることから、広域 DMOの伊勢志摩観光コンベンション機構が取り組む観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」事業に参画していく。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI (実績・目標)

- ※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を 記入すること。
- ※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

(1)必須KPI

		2020	2021	2022	2023	2024	2025
指標項目		(R2)	(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)
		年度	年度	年度	年度	年度	年度
	目			23350	39500	47600	60100
●旅行消費額	標	()	()	()	()	()	()
(百万円)	実	29980	23190	42270			
	績	()	()	()			
〇1人当たり旅	目			5500	6000	7000	8500
行消費額(日帰	標	()	()	()	()	()	()
り)(円)	実	5448	5793	6803			
※観振基本計画目標	績	()	()	()			
〇1人当たり旅	目			24000	26000	28000	30000
行消費額(宿	標	()	()	()	()	()	()
泊)(円)	実	22954	24475	26558			
※観振基本計画目標	績	()	()	()			
● 77 ◇ □ > ↓ ★ ★ ↓ ↓ 	目	711	712	500	550	600	700
●延べ宿泊者数	標	()	()	()	()	()	()
(千人) ※観振基本計画目標	実	477	468	722			
△ 既派坐平山回口 惊	績	()	()	()			
●来訪者満足度	目	87. 5	87. 6	91.5	91.5	91.5	91. 5
(%)	標	()	()	()	()	()	()
※観振基本計画目標 (2021年度実績の	実	91. 1	91.5	91. 5			
維持を目指す)	績	(100)	(93)	(-)			
	目		80	81	82	83	84
●リピーター率	標	()	()	()	()	()	()
2回以上(%)	実	86. 2	83. 6	80. 5			
	績	()	()	()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値。R4年度は外国人満足度調査に足るサンプルが取れず。今後は市と協議し、訪日外国人旅行者に関するデータ取得を検討中。

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

伊勢の観光動向としては、20年に1度の神宮式年遷宮の年をピークとして繰り返す波型となる。過去最高の数値となった平成25年以降は、下降しても平成5年度遷宮のピーク時の数値である800万程度を保ち、高止まりの傾向を見せていた。令和2年からのコロナ禍により観光市場は世界的に激減したが、、令和5年はコロナ禍が解消し「リアルな旅」の魅力が再認識されると見通し、選ばれる観光地になるための施策を行わねばならない。

[※]観光振興基本計画記載以外の目標値はDMOとして設定

[※]伊勢市観光振興計画の目標値は当DMO含め市内各団体参画の観光振興基本計画推進委員会で決定したものである。

観光が伊勢の産業として力を発揮するために、旅行消費額を向上させる取り組みをあらゆる施策で行う必要があるが、宿泊・滞在時間の増加により様々に消費につなげる、また、満足度を高めリピーター率を上げて顧客数を確保するという取り組みが必須であり、そのため下記のKPIを設定し戦略に生かしていく。なお、現状は既存統計をもとに検討しているが、この先三重県のCRM、もしくは市独自のCRM等を活用したマーケティングできるようにステップを踏んでいくことを検討する。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

伊勢市観光客実態調査をもとに分析。コロナ前:2019 年全国平均の宿泊旅行単価 55,054 円/人、日帰り旅行単価 17,334 円/人に比べると、伊勢市の観光消費額は半分以下となっており、単価の上昇が課題である。なお、伊勢市観光協会で令和3年度リピーター対象に行ったアンケート調査では、旅行単価が1~3万が多く、仮に1万円~3万円を2人の予算とすると5千円~1万5千円程度の消費の方が多いということになる。この調査では宿泊者率が多かった(3万円以下の消費額のものについて、宿泊:日帰りは1.1:1)ことから、宿泊費のみの支出でほとんど消費せずに帰っている宿泊客も多かったことが示唆される。なお、伊勢市の観光客実態調査のH31/R1年の日帰り旅行単価は7,647円であり、日帰り旅の消費先として食事とおみやげ購入と考えられるが、コロナ禍では御土産購入が激減した。今後はコロナ前の金額への回復を段階を追って目指すとともに、+ α の支出をしてもらえるような体験型旅行商品の提案を進めることを検討する。

●延べ宿泊者数

伊勢市観光統計をもとに分析。令和3年度は宿泊施設数62、収容人数は4,967人となっている。これは、鳥羽・志摩の半分にも満たないため、キャパシティーの増加が課題である。また、鳥羽・志摩は観光客数の約50%・30%が宿泊者数であるが、伊勢は12%程度である。観光客に伊勢市内に宿泊してもらうインセンティブを打ち出すことが課題である。なお、平成25年度以降はホテルの開業が廃業を上回り、次の遷宮に向けて好循環の兆しが見えている。伊勢市内には富裕層の好むランクのホテルがほとんどないため、ホテルランクのバラエティー強化も課題であり、誘致等について市とともに取り組む必要がある。今後はコロナ前の宿泊者数への回復を段階を追って目指すとともに、遷宮に向けては前回の遷宮時の宿泊者数を超えるように方策を検討していく。

●来訪者満足度

伊勢市観光客実態調査をもとに分析。コロナ禍では必然的にリピーター率が上がるため、満足度はそれに連動して高く出ている可能性がある。しかし、年度に関わらず、どの年も移動・交通の満足度が一番目に低く、情報・案内の満足度が2番目に低いことから、この部分が課題となっている。移動・交通の課題解決は難易度も高く時間も必要であることから、移動交通のコツの情報発信に力を入れ、満足度を向上させる施策を検討・実施していく。

●リピーター率

伊勢市観光客実態調査をもとに分析、伊勢志摩観光コンベンション機構の調査も参考にしている。平成 25 年の遷宮時に、インターネット等の媒体により、伊勢の魅力を効果的に発信することができたため、しっかりと伊勢が参拝と観光の地として再認知され、それが継続してリピーター化している可能性が伺える。このことは、コンベンションの調査と比較すると、伊勢は伊勢志摩他エリアより4回以上の訪問者数が多いこと、また、リピーターのうち1年以内の再訪者の割合が令和3年度 35.1%、令和4年度 32.3%と高いことにも表れている。今後は、さらにリピーター増加を目指し、定期的な訪問を促すことが出来る取り組みを検討・実施していく。

(2) その他の目標

		2020	2021	2022	2023	2024	2025
指標項目		(R2)	(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)
		年度	年度	年度	年度	年度	年度
●観光入込客数	目			5500	6000	7000	8000
(千人)	標	()	()	(40)	(75)	(95)	(145)
※1月~12月	実	5538	3827	6037			
※観振基本計画目標 (外国人数除く)	績	(21)	(8)	(19)			
●HP セッショ	目			400000	1273000	1300000	1350000
ン数	標	()	()	(4470)	(9900)	(11000)	(12000)
※1月~12月	実	370040	399941	912399			
※観振基本計画目標 (外国語除く)	績	(3149)	(4333)	(8262)			
	Ш			72. 3	72. 3	72. 3	72. 3
●住民満足度 (a.x.)	標	()	()	()	()	()	()
(%) ※観振基本計画目標	実	72. 3	66. 3	62. 6			
次既派基本計画日標	績	()	()	()			
●ふるさと納税	目		12000	13000	15000	15500	15700
受託収入	標	()	()	()	()	()	()
	実	5092	13657	13243			
(千円)	績	()	()	()			
●レンタサイク	目		2800	3200	4200	4400	4600
ル貸出数(台)	標		()	()	()	()	
	実	2596	2363	4137			
Ж I Д 12 IZ Д	績	()	()	()			
●手荷物預件数	目			16000	35000	38000	42000
(預り+配送)	標	()	()	()	()	()	()
(件)	実	15797	10564	29745			
※1月~12月	績	()	()	()			

- ※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
- ※各指標項目の単位を記入すること。
- ※観光振興基本計画記載以外の目標値はDMOとして設定
- ※伊勢市観光振興計画の目標値は当DMO含め市内各団体参画の観光振興基本計画推進委員会で決定

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

検討の経緯】

観光消費額を確保するためには、単価を向上させるとともに入込客数増加が大切となってくる。また、人口減少社会で下落が予想される国内需要を見据えて代替するインバウンドを徐々に増加させる必要があるため、外国人観光客数の確保も重要である。また、伊勢市観光協会がDMO組織として持続可能であるためには、協会自体の必要な収入も安定的に確保する必要があるため、収入を確保しながら顧客満足につながる指標もしっかりと設定する。

【設定にあたっての考え方】

●観光入込客数

伊勢市は伊勢神宮参拝者数を観光入込客数としているので、それをもとに分析。遷宮諸行事の無い期間の客数落ち込みを最小限にする施策が必要であるが、まずはコロナ前の伊勢神宮参拝者数に段階を追って戻していく。

●ホームページセッション数

Google Analyticsの数値をもとに分析。WEB上の取組はコロナ禍でも世界中への情報発信手段となる。なお、情報収集源はSNSに移行していくと思われるため、SNSの閲覧数を指標に設置することも見越しているが、時間軸・空間軸で観光地を俯瞰して公式に正しい情報を伝える役目を担うのはまだまだホームページであるため、これまで以上に閲覧してもらう施策に取り組む。外国人の数値は(英・簡・繁・韓・仏・西・独)の合計。

●住民満足度

「市民アンケート」で分析。市に愛着がある、市に住んでいたい、も注視している。住民が満足する 町であることが、国内外の観光客に魅力を伝える根本として必要十分条件あることから、伊勢市観 光振興基本計画では過去最高となった令和2年度数値を維持できるレベルを目指す。

●ふるさと納税受託収入

ふるさと納税の事業は観光地を物産と共に宣伝できる格好の事業であり、尚且つ税収ではない市としての新たな収入源を確保する地方創生事業として大きな役割を果たしている。その受託収入を安定化させるため、受託条件や範囲を市と調整し、収入の柱としていく。

●レンタサイクル貸出数

レンタサイクル事業は観光のSDGsカーボンニュートラルを意識したコンテンツであり、自転車での観光はそれらを推進していくツールとなる事業である。快適な自転車旅を行える受入環境整備を市と共に検討・実施し、まずは、段階を追ってコロナ前の件数への回復を目指す。

●手荷物預件数

鉄道旅行者が手ぶらで観光できるよう環境を整える事業であり、利便性向上とともに公益収入を確保し、レンタサイクルと共に安定経営を目指すもう一つの収入の柱としていく。まずは、段階を追ってコロナ前の件数への回復を目指す。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。 ※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年 (年度)	総収入(円)	内訳	(具体的に記入すること)
2020 (R2)	251,300,483 (円)	会費収入	11,950,500
年度	,	賛助金・寄附金	1,104,000
十尺		市負担金・委託料	116,194,310
		国負担金	3,260,190
		公益事業収入	6,125,477
		収益事業収入	110,156,189

		寄付金振替額等	2,509,817	
			_,,,,,,,,,	
2021 (R3)	191,352,911 (円)	会費収入	5,945,750	
年度		賛助金	1,000,000	
十 <i>汉</i>		市負担金・委託料	139,340,590	
		県補助金	24,864	
		国補助金	3,499,999	
		公益事業収入	8,411,028	
		収益事業収入	30,699,405	
		寄付金振替額	2,431,275	
2022 (R 4)	159,916,784(円)	会費収入	12,361,000	
年度	, ,	賛助金	1,000,000	
十尺		市負担金·委託料	91,079,928	
		受取補助金(国庫)	6,482,400	
		受取補助金 (県)	6,818,557	
		受取補助金 • 助成金	(他) 530,000	
		公益事業収入	26,969,899	
		収益事業収入	$12,\!243,\!725$	
		寄付金振替額	2,431,275	
2023 (R 5)	135,550,880(円)	会費収入	12,000,000	
年度		賛助金	1,000,000	
· · ~		市負担金・委託料	76,835,605	
		公益事業収入	34,659,000	
		収益事業収入	8,625,000	
		寄付金振替額 	2,431,275	
2024 (R6)	100 421 975 (111)	 会費収入	12,000,000	
	129,431,275 (円)		1,000,000	
年度		市負担金・委託料	73,000,000	
		公益事業収入	38,000,000	
		収益事業収入	3,000,000	
		寄付金振替額	2,431,275	
			, - ,	
		A ## /- 7		
2025 (R7)	129,431,275(円)	会費収入	12,000,000	
年度		賛助金	1,000,000	
		市負担金・委託料	73,000,000	
		公益事業収入	38,000,000	
		収益事業収入	3,000,000	
		寄付金振替額	2,431,275	/m\
				(円)

(2)支出

年(年度) 総支出	内訳(具体的に記入すること)
-----------	----------------

2020 (5.5)	232,929,074 (円)	旅客誘致事業	114,311,859
2020 (R2)	<u> </u>	│旅谷誘玖争未 │賃貸事業	1,725,202
年度		│貝貝爭未 │物品販売事業	
			106,406,620
		会員互助事業	410,716
		管理費	10,074,677
		# rb = 4 7 b = 4*	110.050.40*
2021 (R3)	179,070,263(円)	旅客誘致事業	112,676,435
年度		賃貸事業	1,883,138
		物品販売事業	54,490,787
		会員互助事業	412,875
		管理費	9,607,028
2022 (R 4)	157,097,423 (円)	旅客誘致事業	121,918,684
	201,001,120 (11,	賃貸事業	2,761,262
年度		物品販売事業	21,150,965
		会員互助事業	733,525
		管理費	10,532,987
2023 (R5)	100 540 510 (111)	旅客誘致事業	99,569,007
	133,548,510(円)		3,065,078
年度		物品販売事業	20,419,417
		会員互助事業	1,028,110
		一管理費	9,466,898
		日任貝	3,400,030
2024 (R 6)	128,700,000(円)	旅客誘致事業	101,000,000
	140,100,000 (17)	賃貸事業	2,800,000
年度		物品販売事業	14,000,000
		会員互助事業	1,000,000
		管理費	9,900,000
		12.7	0,000,000
2025 (R7)	128,700,000 (円)	旅客誘致事業	101,000,000
	120,700,000 ([])	賃貸事業	2,800,000
年度		物品販売事業	14,000,000
		会員互助事業	1,000,000
		管理費	9,900,000
		日在泉	0,000,000
		1	

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

団体の活動としては、市の観光事業を受託・協働実施することにより、委託料・負担金収入を得て事業を実施してきたが、その年度の市の事業数や規模に左右されるという面がある。今後さらにDMOとして強い組織になるために、安定的な収入を確保し、フレキシブルに観光事業に取り組めるようにしていく必要がある。

運営資金確保の取組・方針として、ふるさと納税事業の業務委託を受託しているので、規模拡大による件数増加に取り組み、収益を確保して収入の柱としていけるよう取り組んでいる。かつ、手荷物預り所の運営形態を変更することにより、収入の柱とするよう取り組んでいる。

なお、DMOとして伊勢地域の観光を発展させることにより、賛同する事業者の会員化による会費収入の確保に努める。また、市とは旅行者の受益者負担による財源確保について継続的に協議していく。旅行業の取得による着地型旅行商品の造成販売等も視野に入れ検討する。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

三重県伊勢市は、(公社) 伊勢市観光協会を三重県伊勢市における地域 DMOとして登録したいので、(公社) 伊勢市観光協会とともに申請をいたします。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携 DMO (県単位以外) や地域 DMOと重複する場合の役割分担について (※重複しない場合は記載不要)

≪伊勢まちづくり株式会社について≫

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った(行っている)か】

エリアが重複する伊勢まちづくり会社地域 DMOとは、かねてから月に一度程度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行うとともに、令和4年度からは市観光所管課も巻き込んだ DMO(担当者)会議を開催してきた。この地域としての話し合いの中で、伊勢まちづくり株式会社は DMOを返上して DMCとなることを、会社として決定したため、この先は、当協会が DMOを担い、伊勢まちづくり株式会社が DMCとして観光まちづくりを含めた伊勢市としての中心市街地の発展に努めていく方向となる。

≪伊勢志摩観光コンベンション機構について≫

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った(行っている)か】

伊勢志摩観光コンベンション機構(広域 DMO)とは、年4.5回ずつ開催される各種会議(観光企画委員会・フィルムコミッション・伊勢志摩学生団体誘致委員会・インバウンド委員会)に参画するとともに折々に連絡し、伊勢志摩エリアでの面的取り組みについて協働している。

【区域が重複する背景】

観光客が伊勢志摩エリアに旅行する際は、行政区域に関係なくこのエリアを一体として捉える傾向にある。そのため、伊勢志摩エリアでは、かねてより情報共有・協議・意思疎通を行い、平成25年の第62回神宮式年遷宮や伊勢志摩サミットなど、伊勢志摩観光コンベンション機構(広域DMO)、伊勢志摩各行政・各観光協会、三重県(三重県観光連盟(広域DMO))でしっかり役割分担を行い、広域連携で遂行してきた。

【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

特に第 62 回神宮式年遷宮の際は、伊勢神宮に参拝に来る方々にできるだけ伊勢志摩エリアに周遊してもらうため、コンベンションが中心となり各エリアの取組と伊勢の取組を繋いだ「伊勢志摩キャンペーン」を展開した。また、三重県は遷宮の参拝客にいかに三重県内で周遊してもらうかの知恵をしぼり、伊勢志摩キャンペーンを側面支援し上手く連携した。このように、各地域は地域の魅力を発揮した集客に取り組み、その各エリアの集客を伊勢志摩エリア内に効果的に周遊させるのが伊勢志摩観光コンベンション広域 DMOである。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

伊勢志摩各地域は集客の得意分野を活かす。伊勢エリアは伊勢エリアで知恵を絞って集客し、それを伊勢志摩エリアへの周遊につなげること、また鳥羽・志摩での集客を伊勢エリアへの周遊につなげるという役割をコンベンションが担うことが上手くいけばいくほどに、このエリアが発展する。また、そもそも広域での取り組みが効果を出すインバウンド、フィルムコミッションや学生団体誘致などをコンベンションが担っていることも、このエリアの強みである。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	谷 朋恵
担当部署名(役職)	事務局
郵便番号	516-0074
所在地	三重県伊勢市本町 16-2
電話番号(直通)	0596-28-3705
FAX番号	0596-27-1049
E-mail	info@ise-kanko.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県·市町村名	三重県伊勢市
担当者氏名	東良二
担当部署名(役職)	伊勢市産業観光部観光振興課 主幹 兼 観光企画係長
郵便番号	516-8601
所在地	三重県伊勢市岩渕 1-7-29
電話番号 (直通)	0596-21-5566
FAX番号	0596-21-5651
E-mail	kanko-sinko@city.ise.mie.jp

都道府県·市町村名	三重県
担当者氏名	藤野 和輝
担当部署名(役職)	観光部観光振興課受入環境促進班 主事
郵便番号	514-8570
所在地	三重県津市広明町 13 番地
電話番号(直通)	059-224-3116
FAX番号	059-224-2801
E-mail	fujink02@pref.mie.lg.jp

記入日: 令和5年7月28日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】 三重県伊勢市

【設立時期】 昭和25年1月

【設立経緯】

③区域の観光協会がDMOに移行

【代表者】 濱田 典保

【マーケティング責任者(CMO)】 谷 朋恵

【財務責任者(CFO)】 小山 直子

【職員数】 20人(常勤8人(正職員8人)、非常勤12人)

【主な収入】

会費 12百万円、事業収益 95百万円、補助金等14百万円 負担金 35百万円 (R4年度決算)

【総支出】

事業費 147百万円、管理費 10百万円(R4年度決算)

【連携する主な事業者】

伊勢志摩観光コンベンション機構・三重県観光連盟 伊勢まちづくり会社・伊勢商工会議所、伊勢福、 伊勢神宮をはじめとする各社寺、地域団体等

KPI(実績·目標)

※()内は外国人に関するもの。※R4満足度サンプル取得できず。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行	目標	()	()	23350	39500 ()	47600 ()	60100
消費額 (百万円)	実績	29980 ()	23190	42270 ()	_	_	_
延べ宿泊者数	目標	711 ()	712 ()	500 ()	550 ()	600 ()	700 ()
(千人)	実績	477 ()	468 ()	722 ()	_	_	_
来訪者	目標	87. 5 ()	87. 6 ()	91. 5 ()	91. 5 ()	91. 5 ()	91. 5 ()
(%)	実績	91. 1 (100)	91. 5 (93)	91. 5 (—)	_	-	_
リピーター率	目標	()	80	81 ()	82 ()	83 ()	84
(%)	実績	86. 2 ()	83. 6 ()	80. 5 ()	_	_	_

戦略

【主なターゲット】

・伊勢神宮への参拝と食べ物を楽しみに来訪する夫婦・家族(個人旅行)

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

神宮参拝の価値や存在の意味を「知る欲求」を満たす形で伝える。伊勢独自の食べ物や商品の魅力について、購入に繋がるような情報発信に取り組む。リピーターとして定着している方々と伊勢を繋ぐ取り組みも検討する。

【観光地域づくりのコンセプト】

神宮の価値・歴史・文化と魅力的なまちあるきを誇る伊勢

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・二見「絆結び体験」プランの構築
- ・R4看板商品創出事業で作成した 商品のブラッシュアップ及び販売
- ・R4魅力ある観光地づくり事業で 導入の「伊勢ぷちたび」の促進等

【情報発信・プロモーション】

- ・ISE SHOP事業にて観光物産展実施
- ·伊勢観光HP運営、各種SNS情報 発信事業 等

【その他】

・ふるさと納税返礼品対応業務受託

【受入環境整備】

- ・伊勢クリーン大作戦事業、観光地等混雑状況配信事業にて感染症対策及び混雑平準化に対応。
- ・手荷物預り・レンタサイクル事業にて利便性を向上
- ・伊勢市観光案内所をリモー案内機でフレキシブルに運営 等



